

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「憩いの里」ふしみ
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	岐阜県 可児郡 御嵩町 上恵土333
記入者名 (管理者)	内藤 波奈子
記入日	平成20年5月17日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念どおり、その人らしいシルバーライフを常にサポートできるよう、様々な機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にしていくことを実践しています。</p>	<p>今後、会社理念をより達成できるよう年間計画書を作成し明確化して、評価できるようにしたいです。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>朝の申し送り時に、理念を唱和し全職員で理念の共有を図りご近所のボラさん、高校生の職場体験など地域の方の施設への受け入れや、近所への散歩・買い物・外食などの行事を実施し地域に出かけ、様々な方とふれ合える機会を作っています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレット・玄関等に理念を掲示し、お便りなどにも地域交流を行った行事の内容や、今後の予定をご家族さまに、郵送にてお伝えしています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居さまとの散歩中、ご近所の人に声をかけていただいたり、お花や、お野菜をいただくなど交流ができるようになりました。また逆に ご近所の方が、散歩中 ホームの玄関前の椅子に腰掛け休んでいかれています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>大家さんをご近所にみえるので、町内の情報をいただき、お祭りや自治会にも参加させていただいています。近くの自立支援の施設 [アットホーム]に伺ったり、します。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所の老人会の集会に参加させていただき、ホームの情報や 認知症についてのお話をさせていただきました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年5月に管理者変更がありましたので、管理者・職員一同初心に帰り 再度 地域密着とケアの質の向上を目指し今回の外部評価の取り組みを行っています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者変更に伴い、運営推進会議の開催がずれてしまっているが、開催日も決まり、変更挨拶を兼ねて ホームの状況やホームの質の向上に向けての意見交流会としたいと思っています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月及び、変更時FAXにて入居者様の現況報告をさせていただいております。その他、定期的に市町村担当者には、ご挨拶に伺い、運営に関しての、アドバイスをいただいております。		信頼関係を築けるよう 積極的に市町村へ ご挨拶に伺い、ホームの質の向上を図るために、(地域密着の為の情報) アドバイスをいただきたいと思います。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在ホームにて後見制度を活用される方は、みえませんが 社会福祉協議会にてパンフレットや説明を受け 今後 必要な方にご支援できるように、ホーム全体で 学習会を開いています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する学習会を開き、「ホームは、入居者様の安全・安楽・安心を保障する場である」 ホームが入居者様に対して、決して害を与えることがないよう、日常のケアの中で言葉・表情・対応含め接遇に気をつけて、職員同士で、互いに、注意し合えるよう常に、話しています。		虐待は、お互いに しない！させない！見つけたら、その場で注意し、管理者に報告し 見逃さない！！とホーム全体で、徹底できるように、朝の申し送り時に、呼びかけています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>解約時のご説明を含め、契約前の面談時や契約時に、不安に思われることなどをお聞きしご説明を行い、ご理解を得ています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内では入居者様の苦情・要望・相談を真摯に受止め記録に残し、職員で協議しケアに反映させています。又、市町村の福祉オンブズパーソン制度を活用し、定期的に訪問していただき、ケアの状況や入居者様の相談に応じていただいています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>急を要する場合は、管理者や職員が、直接ご家族様に電話にて報告させていただいています。それ以外は、面会時や月に1度のホーム便りに入居者様の状況や、職員異動のお知らせなどを載せご家族様に郵送させていただいています。</p>	<p>今後、介護記録を面会時に、ご家族様に見ていただいたり、月1回記録のコピーを郵送し、日々の様子や、ご家族様に対しての思い、日常の会話など「今」を大切に考えられる限り、お伝えしていきたいと思っています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内ではご家族様様の苦情・要望・相談を真摯に受止め書類に残し、ご家族様と職員で協議しケアに反映させています。また不満、苦情など直接ホームに表せない場合、市町村の福祉オンブズパーソン制度をご利用いただけることを説明させていただき、パンフレットや連絡先も玄関にわかりやすく掲示してあります。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、日々職員の意見を聞きながら運営に反映させています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の急変時などは、職員間で話し合い 勤務時間を延長したりするなど、手厚い介護ができるよう調整しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職率を抑える為に、定期的にホーム巡回し、個別面接を行い管理者や職員のストレスや悩みを引き出し解決できるよう支援している。職員の退社や異動時は、できる限り早い段階で入居者様にお話させていただき、早めに代替職員を雇用し、スムーズに引き継ぎができるよう配慮しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に3回程度、岐阜事務所にてスキルアップ研修を開催し、段階別に個人が無理なく研修に参加できる機会をもうけている。また月1度新人・リーダー・管理者研修あり</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所へは、職員がボランティアで定期的に、訪問し、学びの部分は、当ホームへ持ち帰り取り入れている。またいつでも、訪問いただけるよう管理者は、市町村の全介護事業者が出席するネット会に参加し、交流を深め情報交換をおこなっています。</p>	<p>GH協会の会議や、研修に参加し、管理者及びホームの質の向上や、交流を深めるため参加したいと思っています。現在ネットワークづくりのため、市町村の介護施設や、地域包括支援センターへの挨拶を兼ねて、訪問活動をおこなっています。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>本社にケアマネジメント室を設置し、ケアに対する悩み相談を常時受け付けて対応している。事務所内には、管理者・職員の目に触れるよう連絡先が書かれたパンフレットが貼られています。</p>	<p>日頃、職員への声がけ、傾聴にて、メンタル・ヘルスの、職員のストレス軽減に努め、もし、職員間のストレス、ある場合は、配置転換、行ったり、最善な方法を考えます。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員評価制度・資格手当・優秀ホーム表彰・優秀管理者表彰制度があり、頑張った職員は、昇格や給料に還元される為、向上心のある職員が、働きがいをもてる環境づくりに努めています。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前アセスメントの際、事前にケアマネさんや、ご家族様より情報を得、ご本人様に聴かない方がよい事柄なども周知し、再度、ご本人様から、生活史や好きなこと・大切にしている習慣や物・困っている事などを会話の中で、聴きとっています。また 施設見学の際も同じ者が担当し信頼関係を築けるよう努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族様が、入居にいたるまで、安心して送り出してもらえるようホームの情報を正確に、お伝えしたり、不安に思われる事や悩み・要望などきちんと傾聴し、できる事できない事など誠意をもってお話し、ご理解を得た上で入居契約をしていただいています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしい生活を支援する上で、筋力低下がみられる又は、予防・維持が必要な場合、主治医に相談し訪問リハビリや、マッサージ・歯科指導などニーズに合わせたサービスを利用していただけるようプランニングしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学していただき、ご本人様やご家族様にもホームでの生活に慣れ、安心して入居していただけるよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話や、百人一首、将棋などの昔からの遊びや、料理の方法、味付けなど、一緒に行う際 職員は、生徒や、孫のように、入居者様から学んでいます。ホームでは、できる限り 協働で行う介護を目指し、教えていただいたり、お手伝いをしていただいたら、きちんとお礼を言い互いに支え合っています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の暮らしを密に連絡して、ホームだけでなく、ご家族様の協力を得 相談や、面会や外出・外泊の機会を増やしていただけるようお願いをしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活の中で、ご本人様のご家族様に対する思いを代弁し、「外出後や、面会后とても喜んでみえました。」など、喜びの表れを見逃さず、ご家族様にお伝えしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店、美容院、場所に職員だけでなく、ご家族様にも 願いをして、出かけられるよう支援しています。今までの友達、家族のかたには、遠慮なく、ホームに訪問していただいております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロア対応だけにとどまらず、ホーム全体で入居者様同士が関われるよう支援している。現在2階の内2名が1階に気の合う方が見え好きなきに、遊びに来てみえます。レクレーション、1,2階合同に行う時あります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後、他の施設に入居された折は、職員が、個々に、面会に行っていますが、あえてご家族様には、報告はしていません。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前アセスメントだけでなく、入居される前の暮らしをできる限りホームでも取り入れられるよう生活暦を日常の会話や暮らしからも 傾聴・推測したくさんの情報を共有できるよう記録に残し協議できるよう努めています。ケアカンファレンスにもご本人様に参加いただいています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前アセスメントだけでなく、入居される前の暮らしをできる限りホームでも取り入れられるよう生活暦を日常の会話や暮らしからも推測したくさんの情報を共有できるよう記録に残し協議できるよう努めています。ケアカンファレンスにもご本人様に参加いただいています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子や、健康状態を毎日観察し、記録に残している。ADLの状況を毎月チェックし残存機能の把握に努め支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人様が、生活するのに不自由と感じられる ご自分の思いと現実とのズレの部分をサポートできるよう。日常の様子を様々な角度から観察し主治医・ご家族様にも、相談しながら介護計画を作成しています。		今後、定期的にきていただいているボラさんやご家族様にも、ケアカンファレンスに参加していただけるよう計画をしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価日前に、カンファレンスを開催し、見直しを行っています。又入院され、ホームに戻られる前や、急変後や事故が起きた場合など、緊急カンファレンスを開催し、ご家族様に報告・同意を得てプランの追加や見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、プランの実践・ヒヤリハットなどを介護記録に記入しいままでは、ただ実践した証や、状況など職員目線での記録でしたが、なぜ？ヒヤリが発生しているのか？どう対処したのか？また、改善できるケアはないのか？疑問や気づきの部分も記録に残し情報を共有し評価に活かせるよう取り組んでいます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームなので、多機能性を活かした支援はできていません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺症状の徘徊や、行方不明などの突発な事故に際し消防・警察・民生委員様・自治会長様や町内の方々に、ご協力を得られるようお願いをしています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養への申請や、入院され医療行為が常時必要となった時には、すみやかに、地域のケアマネ(社協)に相談し、ご本人様やご家族様のバックアップを行っています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在ホームにて、必要とされる方はみえませんが、地域包括支援センターとは、連携体制をとっていただけるよう働きかけています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、ホームのかかりつけ医の説明をおこない、往診や急変時ホームから受診できる旨をお話しています。しかし、入居者様の馴染みの病院を希望される方には、ご家族様対応で、受診をしていただいています。どちらも、ホームと医療機関内で、薬や身体状況についての情報を互い共有できる関係をつくっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、内科ですが認知症にも詳しく、親身に相談・助言をいただいています。CTやMRIが必要とおもわれる際は、機材のある病院とも連携をとっていただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が、看護師であるため、日常の健康管理に留意し、適切な医療活用を支援させていただいています。		職員間の情報交換、介護記録等にて、入居者の状態を常時、把握し、左記行っています。特変時、医師の指示の元、迅速な医療処置行っています。かかりつけ医(内科)で、診療以外の科に対して、紹介状を頂いて、他科受診を行っています。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は、介護サマリーを作成し、入居の経緯やホームでの生活などの情報提供をしています。入院時には、ご家族様に了承を得て面会時に、治療内容や退院のめどを、事前にお聞きし、ご指導をいただいています。		認知症のかたの退院の場合、状態良好になられると、即退院になること多く、迅速に対応しています。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前の段階で、重度化した場合や、終末期のあり方など、ご家族様の意向を確認させていただいている。常時医療行為が発生しなければ、できる限りホームにて過ごしていただけるようご家族様やかかりつけ医にも、協力を願い支援体制を整えています。		職員にも、医療の知識を学んでもらい、適切な介護ができるよう今後研修会をおこない指導をしていきたいと思ます。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	認知症の進行と老化による機能低下は、まぬがれない為、早期に異常を発見し、早め早めに、(ご家族様にも報告させていただき)かかりつけ医に受診・相談をしています。		職員にも、医療の知識を学んでもらい、適切な介護ができるよう今後研修会をおこない指導をしていきたいと思ます。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居時の事前面談をホームでおこないご本人のありのままの姿や居室などをみていただきホームでの生活をできる限り継続していただけるよう、情報提供を行い、転居決定になった時には、ケアプラン・処方箋の控えを介護サマリーとともにお渡ししています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>指示・命令的な声かけは、行わないよう 管理者・職員ともに徹底しています。個人情報になる書類類は、書庫に保管し施錠。ご本人・ご家族様以外に個人記録をお見せしない・見られない配慮をしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご家族様との外出はもちろん、ホームでも外出・外食に出かけるなど、ご本人様が、生まれ自発的に参加される行事を計画し、参加する為にも、日々の生活の中で、散歩や、体操・家事・畑の手入れなど「体を動かしいつまでも、元気でいましょう。」と呼びかけたり、お願いしたり個々のレベルや好みに合わせて役割づくりを支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおまかなホーム全体の業務マニュアルは、時系列にて作成してありますが、入居者様中心に介護しているので、その日その日にて柔軟に変更し調整をおこなっています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎朝、更衣する洋服は、ご自分で選んでいただき、洗面所の鏡の前や、居間でも、手鏡をお渡しし、鏡を見て ご自分で、髪を整えたり、ひげをそってもらい、身だしなみを整えるなど、おしゃれをする楽しみをなくされないよう配慮しています。理容・美容院は、訪問業者にも依頼しておりますが、できる限り、ご家族様の協力にて馴染みのお店に行ってもらっています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>火を使い調理する部分は、職員が中心でおこなっていますが、味見・野菜の皮むき・刻み・食器の準備・盛り付け・片付け・食器洗い・拭きなどすべての方にレベルに合わせた役割を持っていただき協働で行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人の希望にお答えし、たばこもホーム内に喫煙コーナーを設けて希望時、吸っていただいています。(タバコ・ライターは、事務所で預かっています。)</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録にある排泄チェック表を活用し、パターンを認識し失禁される前に個人に合わせて、羞恥心に配慮しながら声かけや誘導をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は、基本的に毎日入浴していただけるよう、声をかけています。その時々に合わせて、散歩途中でつんだ、ヨモギや沐浴剤を入れ香や、色を楽しんでいただけるように支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午睡は、強制でなく、好きな時間に、30分程とっていただくようお願いをしています。夜間帯は、ぐっすり休んでいただけるよう 日中の活動や室温に配慮し、気持ちよく眠りにつける環境を提供できるように努めています。(布団を干したり、寝衣・シーツ類を洗うなど)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれのもてる力や、興味に合わせて余暇活動を支援したり、季節に合わせたちぎり絵の大作を時間をかけ、皆で作って飾っています。また家事・掃除・植木や畑の手入れなど、めいめいに役割をもっていただいています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からの同意を得て自己管理ができる方には、所持していただいています。それ以外の方は、ホームにて預かり、外食や買い物の際には、お店の方のご協力を得て 皆さんに お財布を渡し自分で支払っていただいています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩を日課に取り入れ、雨天以外は、毎日全員に声をかけお誘いし、ご希望者と一緒におこなっています。また、お部屋に閉じこもりがちの方は、個別に喫茶店や買い物にいけるようご家族様に相談しご協力をお願いしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月入居者様の希望に合わせた外出を行事に取り入れご家族様にも事前に参加いただけるよう呼びかけておこなっています。また個別に行きたいと申し出があった場合は、ご家族様に相談し内容に応じては、ご協力をお願いしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方は、職員が援助し ご家族様に取りついでいます。お手紙を書かれる方は、いませんが、暑中見舞いや、年賀状づくりは、レクに取り入れて作成し、郵送させていただきます。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お便りや、電話などで、いつでも気兼ねなくホームに来ていただけるよう、お願いをしている。訪問時には、お茶をお部屋にお持ちし、お礼と「ゆっくりお話していってくださいね」と笑顔でご挨拶をしています。お帰りになられる際には、「またいつでもおいでください」と声をかけ、玄関先までお見送りをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて、介護保険法を学び、虐待や、身体拘束をしないケアを目指しています。しかし、現在離設行為のある方が何名もみえ職員が入浴・買い物介助などで、手薄になってしまう時間帯は、ご家族様にも相談し同意を得て、安全に配慮し玄関をロックさせていただいています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解はしていますが、行方不明などの事故もあり 時間帯や状況に合わせ、ご家族様に、相談、了承を得 鍵をかけています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	介護記録内の24時間チェック表に、様子欄に所在場所や、様子を記入し、安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険とみられる物品管理として、施錠できる場所に、保管し、施錠してあります。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルにて、ホームで学習したり、病名・既往歴・薬・ADL・周辺症状・食事・水分量などからみる個別のリスクアセスメントを作成しどのようなリスクがあるのか、意識してケアに活かしたり、ヒヤリハットを介護記録に直接記載し、申し送り、プランを見直すなど、個別の事故防止活動に取り組んでいます。		リスクをきちんと理解した上で、安易に事故防止ばかりの視点にとらわれず、ご本人様の活動意欲や、機会を奪ってしまわぬよう介護計画を作成したいとおもいます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防士による 救命救急の対応の指導を受け、定期的に訓練を行っています。また管理者(看護師)が、現場にて、事故時以外にも、個人のリスクを職員に、周知し 対策なども、随時指導を行っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、避難訓練を行っています。その他、ご家族様や町内の方にも、災害時ご協力していただけるようお願いしております。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクアセスメントを作成し、病状や、身体状況・環境面・内服薬から、みられるリスクをはじき出しご家族様に説明し、職員とともに協議しながら、プランを立案しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護記録に、ヒヤリ。ハットを記入し、職員の気づきの力を養い原因・対策を、チームで協議し、急変・事故防止または、早急に対応できるよう指導しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のリスクアセスメントを作成し、どのような薬を飲んでみえるのか？また薬の副作用からくるリスクを把握し、早期に異常を発見できるよう努めています。また 内服拒否・誤薬の際には、かかりつけ医に電話にて指示を仰いでいます。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝牛乳を飲んでいただいたり、水分を多目に摂っていただく・繊維質の多いおかずを提供する・朝食後のトイレ誘導を行うなど、薬ばかりに頼らず、予防を含めケアに取り組んでいます。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人でも大丈夫な方や確認だけ必要な方・全介助必要とされる方など、口腔・セルフケア能力の状態に応じた支援をしています。その際受診が必要な方は、職員や、ご家族様に、ご協力をお願いしています。受診不可能の方は、定期的に訪問歯科往診、衛生士の口腔ケア訪問を、受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立にて調理を行い、形状や硬さなど、個人に合わせ調整している。水分量も全員記録に残し、最低でも 飲料水から1日1000ccを食事から、1日700ccを摂取していただくよう個人の嗜好に合わせ提供しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、感染予防や、2次感染対策を行えるよう、ミーティングにて、学習している。日常的には、予防対策として 手洗いうがい励行(手拭は、ペーパータオル使用) 手すりや、床は、ハイターを希釈し掃除。食器や、ふきん・まな板の消毒を毎日行っています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や、まな板、布巾は、毎回消毒し清潔保持に努めている。食材は、毎日新鮮な物を買出しに行き、生ものは、冷蔵庫に保管し使用するギリギリまで、出さないようにしている。包丁を入れたのちは、雑菌が繁殖しやすいので、30分以内に調理又は、すぐに、冷蔵庫に入れるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者様の手作り表札や、プランターに四季おりおりに、お花を入居者様と植え替えて玄関前に飾り、威圧的にならず、温かさを感じていただける工夫をしています。開所より、長イスを2箇所玄関の前に、設置してありますが、今では、散歩途中のご近所の方の休憩場所として、活用していただいています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間は、使用后すぐに、清掃し清潔保持に努めています。また いつでも、手が届く場にティッシュを置く、時計が見える。幼稚にならないよう、入居者様の作品を飾るなど、その他、観葉植物や、お花を飾るなど、家庭的で、潤いを感じて過ごしていただける工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員や、他者から 少し死角になるスペースに、椅子やミニテーブルを置いて 入居者様が、安心して過ごせる居場所を作っています。又、入居前の生活の延長として、横になり新聞やテレビが見れる、休憩の場や、皆で、洗濯物を広げて、たたみ仕分けする、作業の場として、多目的に活用していただいている畳コーナーがあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みのある家具を持ち込んでいただいている方もみえれば、入居が長く、認知の進行や、転倒のリスクの高い方は、障害となるため、残念なことに、ご家族様と相談の上、持ち帰っていただいた方もみえます。その場合は、壁にご家族様の写真や思い出のある品を飾るなど、冷たく、殺風景にならないよう配慮しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時は窓を開け換気し、新鮮な空気を入れていきます。外気との差ができないようホーム内や、居室の温度設定にも、1日を通して こまめに調整しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、段差もなく廊下には、手すりが取り付けられています。又、手すりの近くに物を置かないことを徹底し、動線をさえぎらないよう配慮しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	むやみに、物を移動させない。馴染みのある言葉を選んで、トイレや、浴室、居室などに、わかりやすい目印を作成して、入居者様の目線の高さに合わせ、分かりやすく 取り付けられています。また、夜間玄関や、非常口のガラスの窓に映る外の景色や影に脅えたり、混乱されないように、カーテンを取り付けて対処しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や、花壇があり、野菜の収穫や畑づくり・水遣りや手入れなどを無理のない程度で、お好きな方や興味のある方を中心で行っていただいています。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の余暇活動 * 季節に応じた、壁面飾りの大作を うす紙を 細かく裂いて、入居者様全員で、ねじりながら貼り付け製作してみえます。 * 歌が大好きな入居者様が多